

西暦	元号	田中光顕の略歴	社会の動き	備考
1843	天保14	11月16日（旧暦9月25日）誕生、土佐の国、高岡の佐川町に生まれる。 父、浜田充実、母、献の長子。幼名、浜田辰彌。（※1）		※1. 浜田家の格式は、深尾家の「新小姓（2人半扶持）」であった。「新小姓」は佐川では士格だが、高知では士の資格はない。年賀の場合、士格のものは紙衣をきて藩主に謁見できるが、光顕の家には、その資格がなかった。
1853	嘉永6	11歳、深尾家の学校、名教館に入り、経学、算法、武道等を学ぶ。	ペリー浦賀に来航	※2. 「春雨じゃ濡れて行こう……」の名台詞で有名な月形半兵太のモデルと言われている。土佐勤皇党の指導的立場にあった。
1861	文久元	19歳、高知に出る。武市半兵太（瑞山※2）の道場に通い始める。「土佐勤皇党同志血盟書」加入。	生麦事件	
1862	文久2	20歳、藩校、文武館に入り修学、叔父那須信吾の命により、吉田東洋の暗殺の際の伝令役を行う。		
1863	文久3	21歳、2月、京都に上る。坂本竜馬、中岡慎太郎、桂小五郎（のちの木戸孝允）、高杉晋作等と出会う。4月、帰郷を命ぜられる。9月、土佐藩の勤皇党弾圧により、謹慎処分をうける。	高杉「奇兵隊」を編成 薩英戦争	
1864	元治元	22歳、8月、同志と脱走、9月、長州入り、11月、再び同志とともに長州を脱走。將軍家茂を打つべく、大阪城焼打ちの計画をもって大阪入り。	池田屋事件 四国連合艦隊、下関を砲撃	
1865	慶応元	23歳、1月、大阪の滞在先が新撰組に襲撃されるが、不在であったため助かる。大阪を脱出。大和十津川へ逃走。7月、京都に上り、中岡慎太郎の部下となる。8月、中岡とともに馬関（下関）に行く。高杉晋作と会し、帶刀（安芸国佐伯莊藤原友安）を贈り、高杉晋作の弟子となる。伊藤俊輔（博文）、桂小五郎、山県狂介（有朋）と交友する。	第2次長州征伐	
1866	慶応2	24歳、6月、幕府の長州征伐。高杉晋作に従い、太宰府に向い幕軍と戦う。 丙寅丸機関長として九州地方を転戦し、幕軍を破る。桂小五郎と共に丙寅丸機関長として鹿児島に赴く。	薩長同盟、將軍家茂没、孝明天皇没	
1867	慶応3	25歳、3月、長州藩の命により伊藤俊輔に同行し、上京する。伊藤俊輔、山県狂介等とともに京都に潜伏。6月、山県等とともに長州へ。8月、帰京、陸援隊（※3）に入り、副将格となる。中岡死後、光顕は、橋本鉄猪とともに、陸援隊の指揮者となる。12月、高野山義挙。	11月、坂本竜馬、中岡慎太郎暗殺される。 大政奉還、王制復古	※3. 中岡慎太郎が指揮したもので、坂本竜馬の海援隊とならぶ土佐藩付属の軍隊。
1868	明治元	26歳、2月、朝廷の命により御親兵取調役となる。4月、病気のため当時兵庫県知事であった伊藤博文の食客となる。その後、伊藤博文より兵庫県権判事に任命さる。	「五条誓文」掲示 戊辰戦争始まる 討幕軍江戸城入城	

西暦	元号	田中光顕の略歴	社会の動き	備考
1869	明治2	27歳、伊藤博文（※4）とともに東京に移る。この時、光顕は会計官監督司知事となり、大阪在勤となる。	二官六省を制定	※4. この時、伊藤博文は、兵庫県知事を罷免され、会計官権判事となり、東京在勤を命じられた。光顕も兵庫県に辞表を出し、伊藤と行動を共にしている。
1870	明治3	東京に転勤。大阪の多田耕作の娘と結婚するが、まもなく離婚。		
1871	明治4	1月、酒井忠顕の二女辰子と結婚。10月、岩倉具視全権大使一行の理事兼会計事務官として欧米へ派遣。（アメリカ、オランダ、プロシア、フランス、イギリス等を歴訪）	廃藩置県	
1872	明治5		陸・海軍省設置	
1873	明治6	31歳、9月、帰国。陸軍会計監督に就任。（※5）	地租改正条例布告 内務省設置	※5. この時の陸軍卿は、山県有朋であった。この頃から光顕は山県の腹心として働くようになつたと言われている。
1875	明治8	33歳、辰子夫人死亡。5月、陸軍第五局副長。		
1876	明治9	34歳、佐川旧主深尾卿の長女伊与子と結婚。		
1877	明治10	35歳、2月、西南征伐軍団会計部長となる。	西南戦争	
1878	明治11	36歳、11月、陸軍会計監督長、第五局長（※6）となる。	大久保利通 暗殺	※6. 後の経理局長であり、主計畠のトップといえるポスト
1880	明治13	38歳、10月、陸軍会計局長となる。		※7. 参議院とは内閣の命により法律規則の制定、審査を行うことを目的としていた。議長は伊藤博文であった。
1881	明治14	39歳、10月、陸軍少将に任命されると同時に陸軍をやめ、参議院議官（※7）となる。		
1882	明治15	40歳、靖国神社境内に遊就館（※8）建設。刀剣会設立。	鹿鳴館建設（※9） 軍人教諭発布	※8. 西南の役で戦死した將官をまつることを目的とした。
1884	明治17	42歳、恩給局長兼任。	華族令制定	
1885	明治18	43歳、5月、第一次伊藤内閣の時内閣書記官長となる。 12月、元老院議官。	内閣制度制定	※9. コンドル設計。鹿鳴館時代、光顕は舞踏会など嫌いだといって見向きもしなかつたといわれている。光顕の剛直な人柄をよく表わしている。
1887	明治20	45歳、5月、子爵を受けられる。会計検査院長兼任。		
1888	明治21		市制町村制公布	
1889	明治22	47歳、12月、第三次山県内閣の時、警視総監となる。	東海道本線開通（岩瀬駅の開設）	
1890	明治23	48歳、7月、貴族院議院初当選。	第1回帝国議会	
1891	明治24	49歳、3月、警視総監辞任。宮中顧問官兼帝室会計審査局長となる。4月、貴族院議院辞任。小石川区関口町に自宅芭蕉庵建設。		

西暦	元号	田中光顕の略歴	社会の動き	備考
1892	明治 25	50歳、1月、学習院長兼任。		
1894	明治 27		日清戦争勃発	
1895	明治 28	53歳、3月、学習院長被免。7月、宮内次官。	日清講話条約調印	
1897	明治 30	55歳、宮内次官辞職。		※ 10. 松方内閣退陣後の第3次伊藤内閣の組閣の際に復職している。
1898	明治 31	56歳、1月、宮内省図書頭として復職。(※ 10) 2月、宮内大臣。4月、皇室経済顧問となる。(この年、蕉雨園建設に着手※ 11)		※ 11. 山県有朋別荘椿山荘の隣接する7500坪の敷地に建設。棟梁大河喜十郎・加藤文次郎。この蕉雨園建設に際して御料材を横領したのではないかとの疑惑が、新聞に取り上げられ、名誉毀損事件にまで発展した。その後、蕉雨園は富豪の渡辺治右衛門の手を経て、昭和5年より、野間清治(講談社)に売却されて現在に至っている。
1899	明治 32	57歳	東宮御所(赤坂離宮) 着工(※ 12)	
1900	明治 33	58歳、5月、旭日大綬章。		
1904	明治 37	62歳、3月、日露戦争に出征。	2月、日露戦争勃発	
1905	明治 38	63歳、3月、帰還。伊与子夫人死亡。		
1906	明治 39	64歳 古谿荘建設のための用地買収。 4月、旭日桐花大綬を賜る。9月、英國勲章を受領。		
1907	明治 40	65歳、9月、伯爵となる。蕉雨園完成。古谿荘建設着手。		※ 12. 設計片山東熊
1908	明治 41	66歳、1月、韓国皇太子嘉礼に付特使として出発。	東宮御所(赤坂離宮) 完成	※ 13. 祝賀会参列者の中に宮内省内匠寮技術者である足立鳩吉技師の名がある。
1909	明治 42	67歳、新夫人をめぐるスキャンダル発生、皇室財産横領事件へと発展。6月、宮内大臣依頼免職。古谿荘完成。		
1912	明治 45	70歳、1月、古稀の会、明治天皇より銀杯を賜る。(※ 13)		
1914	大正 3	72歳、富士川町岩渕、古谿荘に隠退。青山荘建設のための用地買収に着手。		
1915	大正 4	73歳、10月、明治天皇御銅像を献上。		※ 14. 水戸の勤皇の志士の顕彰を目的として建設された。
1916	大正 5	74歳、青山荘建設着手。		
1918	大正 7	76歳、蒲原町青山荘に移る。臨時帝室編纂局総裁。(大正8年まで)		※ 15. 明治天皇の遺跡を記念するものとして建設された。
1930	昭和 5	88歳、茨城県大洗町常陽記念館建立。(※ 14) 多摩聖蹟記念館建立。(※ 15)		※ 16. 2月15日、当時の県知事の案内で公使一行が下検分に古谿荘を訪れている。しかし、他国への献上は、日本国領土の割譲を意味することになるという理由から、沙汰やみとなり、実現しなかった。
1933	昭和 8	92歳、満州國皇帝溥儀に古谿荘献上の話が持ち上がる。(※ 16)		
1936	昭和 11	94歳、古谿荘、講談社社長野間清治氏に売却。		
1939	昭和 14	97歳、3月28日逝去。従一位を贈られる。		